

# St. Luke's International University Repository

## Support Services in the Learning Commons at St.Luke's International University

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-04-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松本, 直子, 藤田, 寛之, 佐藤, 晋巨, 奥, 裕美, Huffman, Jeffrey, 中島, 薫, 福田, 昌, 平川, 淳一, Matsumoto, Naoko, Fujita, Hiroyuki, Sato, Kuniko, Oku, Hiromi, Huffman, Jeffrey, Nakajima, Kaoru, Fukuda, Akira, Hirakawa, Junichi メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.34414/00013661">https://doi.org/10.34414/00013661</a>

This work is licensed under a Creative Commons  
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0  
International License.



---

短 報

---

## 聖路加国際大学ラーニング・コモنزの学習支援サービス

松本 直子<sup>1)</sup> 藤田 寛之<sup>2)</sup> 佐藤 晋巨<sup>1)</sup> 奥 裕美<sup>3)</sup>  
Jeffrey Huffman<sup>3)</sup> 中島 薫<sup>4)</sup> 福田 昌<sup>5)</sup> 平川 淳一<sup>6)</sup>

### Support Services in the Learning Commons at St. Luke's International University

Naoko MATSUMOTO<sup>1)</sup> Hiroyuki FUJITA<sup>2)</sup> Kuniko SATO<sup>1)</sup> Hiromi OKU<sup>3)</sup>  
Jeffrey HUFFMAN<sup>3)</sup> Kaoru NAKAJIMA<sup>4)</sup> Masashi FUKUDA<sup>5)</sup> Junichi HIRAKAWA<sup>6)</sup>

#### [Abstract]

Designed to be a place where students can freely study, brainstorm, and chat with each other, the Learning Commons at St. Luke's International University opened its doors in March of 2017. Due to shifting trends in university education, and particularly the heightened emphasis on providing facilities and services that support and encourage students' active learning, many universities have begun establishing Learning Commons in recent years. However, one would be hard-pressed to find another example of a Learning Commons which offers such globalized and unique services that reflect the flavor of the university, at least among single-department universities in the healthcare education sector. In this report, we present the background and details of the establishment of our Learning Commons, as well as an assessment of the current state of services and usage (April 2017 through September 2018). From this assessment, we have also identified a number of challenges that need to be addressed going forward.

[Key words] Learning Commons, Active Learning, Higher Education, Education of Healthcare Professionals

#### [要 旨]

聖路加国際大学ラーニング・コモنزは、学生が自ら学び、多様な人々と語り合い、研鑽を積む場として2017年3月よりサービスを開始した。大学教育の質的転換にともない、学生の能動的な学修を推進する支援と環境整備の必要性が高まり、近年、学内にラーニング・コモنزを設置する大学が増加している。しかし、医療系の単科大学において、ラーニング・コモنزを設立し、大学の特色を活かした独自のグローバルな学修支援を展開している先駆的な取り組みは他に例を見ない。本稿では、設立の経緯と現状(2017年4月～2018年9月)、さらに現状の把握から抽出された課題を報告する。

[キーワードズ] ラーニング・コモنز, アクティブ・ラーニング, 高等教育, 保健医療職の教育

---

- 1) 聖路加国際大学学術情報センター・St. Luke's International University, Center for Academic Resources
- 2) 聖路加国際大学広報室・St. Luke's International University, Public Relations Office
- 3) 聖路加国際大学大学院看護学研究科・St. Luke's International University, Graduate School of Nursing Science
- 4) 聖路加国際大学国際連携センター・St. Luke's International University, Center for International Cooperation
- 5) 聖路加国際大学学生支援センター・St. Luke's International University, Center for Student Support
- 6) 聖路加国際大学情報システムセンター・St. Luke's International University, Center for Information

受付 2018年10月26日 受理 2018年11月21日

## I. 背景

聖路加国際大学（以下、本学）のラーニング・コモンズ（以下、LC）は、学生が自ら学び、多様な人々と語り合い、研鑽を積む場として、2017年3月よりサービスを開始した。LCは、近年、大学図書館の学生支援サービスを特徴づける、大きな潮流となっている。LCとは、学習者中心の新たな教育方法への転換から、学生が授業外に行う自学自習や協同学習の様々な学習形態へ適応するために、大学図書館等が提供する学習環境（施設、設備及び情報・コンテンツ）と、この学習環境を活用した主体的な学びを促す仕組み（人的支援）の総体を指す、とされる<sup>1)</sup>。「学術情報基盤実態調査」<sup>2)</sup>によると、大学図書館において、LCをはじめとする「アクティブ・ラーニング・スペース」（複数の学生が集まり、様々な情報資源を活用しつつ議論を進めていく学習スタイルを可能にするスペース）は、2017年（5月1日現在）で512大学（65.4%）に設置されている。2013年の224大学（31.5%）と比較すると約2倍に増えている。

現在、先行例の多くは総合大学が占め、本学のような医療系の単科大学に設置し、さらにその空間を有意義に活用し学習支援サービスを積極的に展開している例は見つけられなかった。そこで、本稿では、設立の経緯と現状、さらに現状の把握から抽出された課題を報告する。

## II. 概要と設立経緯

### 1. 概要

LCの概要として「設置目的」「用途」「施設」「サービス」「組織体制」を述べる（表1）。

LCの設置目的は、本学の理念である「キリスト教精神に基づき、看護保健・公衆衛生の領域において、その教育・学術・実践活動を通じて、国内外のすべての人の健康と福祉に貢献する」人材を育成するための自学自習、協調学習の支援である。設置費は、おもに故助川尚子教授の寄付と文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」の補助金による。助川教授は、本学で図書館長として現図書館施設の建築に参加、また「英語」「異文化コミュニケーション」等の科目を担当、国際的に活躍する人材の輩出に長きにわたり尽力され、LCはその遺志を継ぐ場となっている。さらに学習者中心の教育方法へとシフトする大学改革への本学の取組みを施設として見える形にした。この設置目的から具体的にLCはどう利用する場なのかを「用途」として示し学内で共有した。

施設は本学の大学本館3階に位置し、図書館に隣接する講義室を改築して整備した。まず、講義室（301・302）を学習の場とするため、電源と学内LANを拡張する基盤的な工事を行った。次に、学術情報の活用促進を狙い、

図書館との連絡通路を開口し、廊下の両側に資料の持ち出しを防止するブックディテクションシステム（以下、BDS）を設置、自由に図書館資料を持ち出して学習できるようにした（図1）。また廊下の壁は、催し物の告知や情報交換ができ、場合によってはポスターセッションができるように、磁石が使用できる特殊な塗料を塗り、広い掲示板とした。グループワークエリアのうち、301は学生によるプレゼンテーションの試演や図書館資料を使った授業のためにレイアウトしやすい空間とし、可動式で折り畳みができる一人用の机・椅子を100席、同型で揃え、スクリーン、小型のホワイトボードを備えた。302は図書館との連絡通路があり、LCの中心的な場として職員が常駐する学修支援カウンターを置いた。自由でくつろいだ雰囲気での学習ができるように、3種類のソファース席と可動式のグループ学習席を設けた。310は、比較的少人数のミーティングや授業に使用できる。机面がホワイトボードとして使用できる4人掛けのグループ学習席を設けた。個人ワークエリアである303は、電気スタンドがあり集中して学べる個人席を備えた。

当初、302、303等に、PCやプリンタ、コピー機を設置することを検討したが、隣接する図書館で利用できること、他施設の整備計画が検討中であったことから、学生の動向を把握したうえで実施することとなった。機器は、このほか、プロジェクトのほか、クリッカーと映像収録との統合により授業や実習等でのコミュニケーションを促進することができるPF-NOTE、複数の映像を入力してボタン操作で合成録画できる小型軽量収録システムPower Rec SSを備えた。

現在、4種類のサービスを実施している。このうち「アカデミック・ライティング・デスク」（以下、AWD）は、LC設置に先駆けて2015年度より開始した。「ラーニング・コモンズ利用の相談」は学修支援カウンターで受け付けており、2017年3月LC設置と同時に開設、そのほかのサービスは2017年度より開始した。

組織体制は、運営を学術情報センター学習コミュニティ支援室が行い、連携部署の代表で構成されるラーニング・コモンズ・ワーキング・グループ（以下、WG）が支援する。

### 2. 設立経緯

2015年度より学術情報センターに学習コミュニティ支援室を設置、「ラーニング・コモンズの在り方に関する提言」<sup>1)</sup>、先行例を参考に整備計画を策定した。先行例として、立教大学、国際基督教大学、同志社大学、明治学院大学、神田外語大学、京都産業大学を見学した。2016年度にはWGが発足した。私立大学等改革総合支援事業の補助金を申請し交付を受け、第一期として、講義室（301・302）の基盤的な工事と、302・303の什器を整備した。ま

表1 ラーニング・コモنزの概要

設置目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) おもに学生の授業外学修を支援しアクティブラーニングを促進する</li> <li>2) 学生と学生, または学生を取り巻く教職員・市民等による学びの相互作用が起きる場を提供する</li> <li>3) 学生が多様な文化に触れ, 国際的な視野で最適な情報を収集し, 自らの社会的な役割を認識しながら, 活動する現場・地域における問題解決に活用できる能力の向上を支援する</li> </ol>
用途	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 討議, プレゼンテーション, 協調学習などの小グループでの自学自修</li> <li>2) ICTによる電子的環境の利用とそのスキルの養成・自学自修</li> <li>3) 英語を中心とする多言語の自学自修</li> <li>4) 電子リソースを使った調査, 授業用の資料作成</li> <li>5) 図書館資料を活用して行われる授業の実施</li> <li>6) その他, 学術情報センター長が認めた学生の学修に関わる活動</li> </ol>
施設 3桁数字=部屋番号 ( )内=収容人数	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 全体の面積・座席数: 576㎡・258席</li> <li>2) グループワークエリア 301 (50~100人程度), 302 (50~80人程度), 304~309 (2~8人程度), 310 (15~30人程度)</li> <li>3) 個人ワークエリア 303 (15~30人程度)</li> <li>4) 機器 プロジェクタ5台, PF-NOTE 1台, Power Rec SS 1台, Wivia 4台</li> </ol>
サービス	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ラーニング・コモنز利用の相談 利用方法やサービスの案内, 施設 (301・302・310) の予約受付, 機器類の貸し出し, その他, 利用に関する相談</li> <li>2) アカデミック・ライティング・デスク 経験豊かな講師 (ネイティブ) による個別相談 (週2日, 各日3回, 40分/回)。対象とする英文の種類は, 授業のレポート・プレゼンテーション原稿, 卒業論文, 修士・博士論文, 課題研究, 投稿論文, 留学, 進学, 就職の書類等。年数回, 関連したセミナーも実施。</li> <li>3) インターナショナル・ランゲージ・カフェ 留学生に自国の文化・保健医療の事情について情報提供してもらう場を設け, 外国語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。留学生による保健医療事情に関するミニレクチャー, 食文化紹介イベントを実施</li> <li>4) プレゼンテーションの相談 看護教育学研究室と連携して実施の個別相談 (月2回)。伝わるプレゼンテーションの方法や, わかりやすい資料, 見やすいパワーポイント, 学会ポスターの作り方を支援</li> </ol>
組織体制	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 運営: 学術情報センター (学習コミュニティ支援室が担当)</li> <li>2) 連携: ラーニング・コモنزWGが中心となって運営を支援</li> </ol>

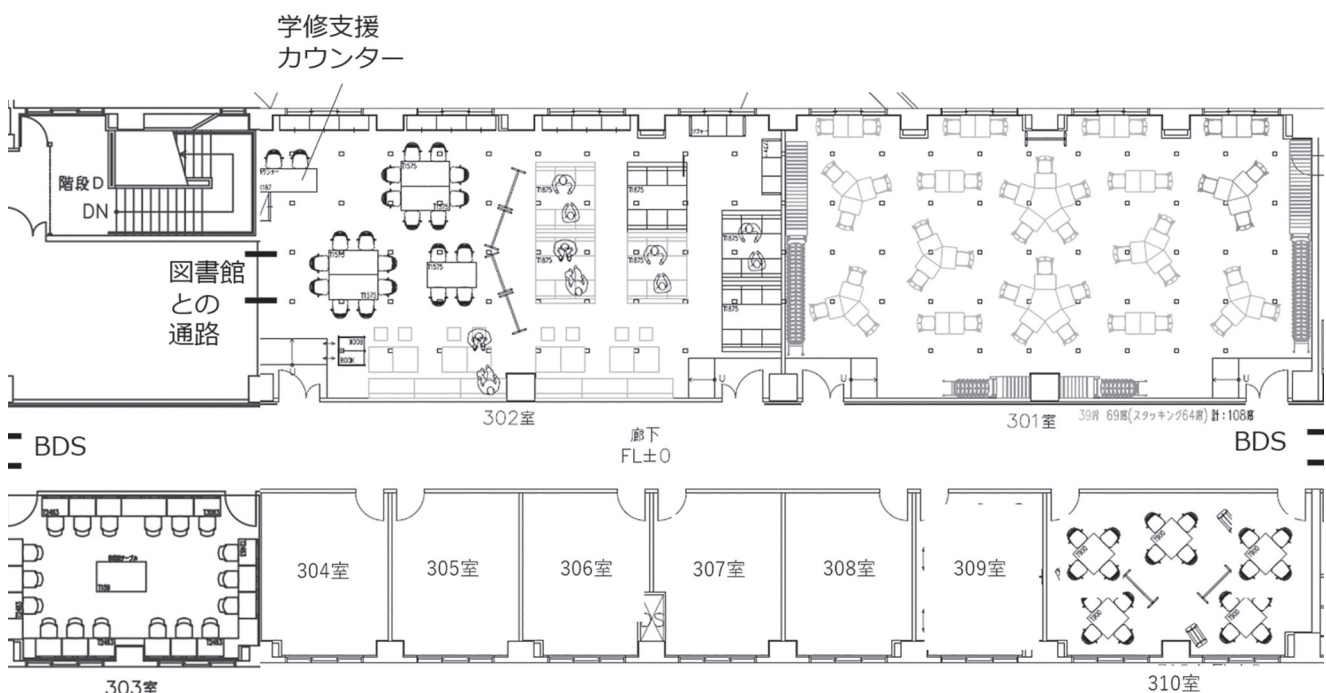


図1 ラーニング・コモنزの施設 (大学本館3階)



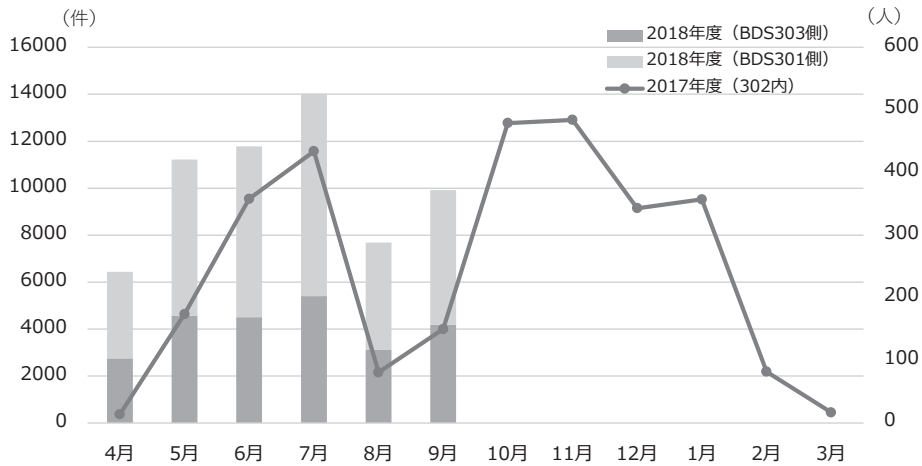


図2 施設の利用

た、学内で整備計画を伝える機会をつくり、LCで実施したいサービスを募集し確定した。さらに運用細則を策定し、サービスを開始した。2017年度は、第二期として、301の什器、図書館との連絡通路、BDS、廊下の掲示板を整備した。サービスの確立を目指し、大学院生のアルバイト（留学生）の配置を試み、学生への利用調査を実施した。2018年度は、301の什器の追加と、学生への調査結果を踏まえた機器整備、新たなサービスの検討を実施した。

### Ⅲ. 現 状

おもに、2017年度、2018年度（2018年4月～9月）における施設の利用、サービスの実施と利用と、2017年度に実施した学生対象の調査をもとに報告する。

#### 1. 施設の利用

施設の利用数について、2017年度はサービス時間（9：00～17：00）における302の在室人数を職員が毎時、目視で計測、2018年度は廊下に設置したBDSの通行件数を集計している（図2）。いずれも利用数は授業の実施期間が多い。

#### 2. サービスの提供と利用

施設の整備に先駆け開始したAWDの利用は年々増加している（図3）。学部生の利用は減る一方、大学院生の利用が増えている。学部生の利用が減った理由としてサービス時間が必修科目の授業時間と重なっていること、継続的に利用する大学院生の後手になり予約が登録しにくくなっていることが理由として考えられる。最近の利用が常に時間枠に対し100%である。実施日の4週間前に予約日を設定しているが、即日すべての枠が登録される状況である。2018年度は現在までに39回実施した。

インターナショナル・ランゲージ・カフェは、2017年

度に大学院の留学生4名（出身国：マレーシア、バングラディッシュ、フィリピン、エジプト）が合計154.5時間、自由に会話できる時間を設けた。このほかに、国際連携センターと共催で、ミニセミナー「留学生と英語でコミュニケーション」を4回開催した。母国で医師・研究者としての実務経験を持つ上記4名の留学生をから各国の保健・医療について聞き、英語で交流する機会を設けた。2018年度は10月からサービス開始の予定である。ミニセミナーはブラジルからの交換留学生をゲストスピーカーに3回実施した。

プレゼンテーションの相談は、2017年度に10回実施し利用は6件、2018年度は6回実施し利用は5件であった。

このほか、学術情報の探索、選択及び公表に関するガイダンスとして、文献管理ソフトRefWorksについて2017年度、2018年度ともに2回実施、質的研究のためのデータ分析ソフトNVivoについて2018年度に3回実施した。

#### 3. 学生への利用調査

2017年度に学生を対象にLCの施設や学習支援サービスの利用と期待に関し基礎データを得るため調査を実施した。調査時期は、当初、整備計画時に実施することが検討されたが、WG内でLCがない状態では学生が具体的に想像できず回答しにくいという意見が出て、第一期整備が終了しサービスが開始した後となった。

##### 1) 調査の概要

目的は、LCの施設や学習支援サービスを整備するため、その利用と期待に関し基礎データを得ることである。方法は、学生（看護学部、大学院看護学研究科、公衆衛生学研究科）627名（2017年5月1日現在の学生数）を対象に、Googleフォームを使用して質問紙調査を行った。調査は学生の授業実施時期に合わせ2回実施し、期間は、第1回が2017年7月27日～10月31日、第2回が2018年1月22日～3月19日とした。質問項目は、第1、2回共通の項目が「所属（学部／研究科、学年）」「LCの利用」

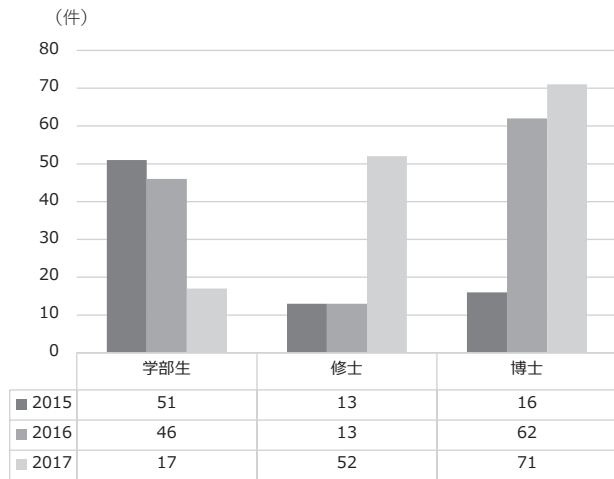


図3 AWD 利用件数の推移

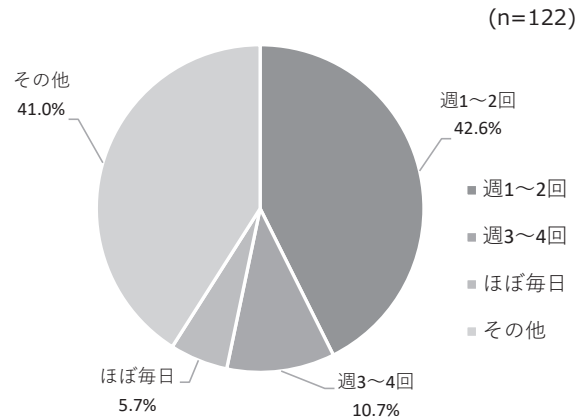


図4 利用頻度

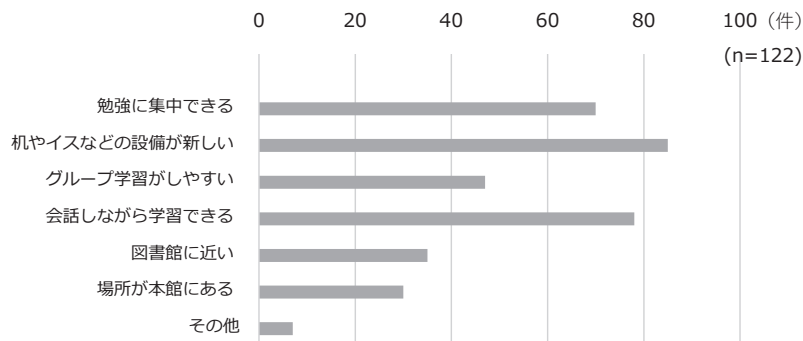


図5 よい点 (複数回答)

「利用頻度」「利用目的」「よい点」「自己学習 (個人・グループ) を行う時間帯」「利用していない理由」「学内の学習環境, 設備, サポートなどへの意見」であり, 第2回のみ項目は「サービス・イベントの希望」であった。「サービス・イベントの希望」は, サービスを開始して半年以上経たことから加えた。調査内容はメールで周知し回答する意思のある学生が質問紙のサイトに進む方法とした。個人情報「所属 (学部/研究科, 学年)」のみ収集し回答から個人を特定できない。

回答数は, 第1回が181名 (回答率28.9%), 第2回が33名 (回答率5.3%) から得た。第2回の回答数が少なかったため, 今回は, おもに第1回調査の結果をもとに報告する。なお, 回答者181名は, その所属別の割合をみると, 対象者全体の割合をほぼ反映しており, 看護学部が63.5% (対象者64.9%), 看護学研究科が32.0% (対象者29.5%), 公衆衛生学研究科が5.6% (対象者4.4%) であった。また, LCを利用したことがある人は回答者181名のうち122名 (67.4%) であった。

122名の利用状況を見ると, 「利用頻度」は週1~2回が最も多く (図4), 「利用目的」は「自己学習」が個人 (45.6%) とグループ (40.7%) を合わせ9割弱となった。「LCのよい点」として, 「机やイスなどの設備が新しい」 (85件) が最も多く, 続いて「会話しながら学習できる」

(78件)「勉強に集中できる」 (70件) という結果となった (図5)。

利用したことがない59名に, その理由を質問したところ, 「他の場所を利用している」「利用の仕方がわからない」「LCを知らない, または, どこにあるかわからない」という回答が多かった (図6)。

第2回のみ実施した「サービス・イベントの希望」は「映画上映会」 (16件) との回答が多かった。

自由記述は第1回が68名, 第2回が14名の回答があった。全2回の調査に対して複数寄せられた意見として, 「会話して学習が可能」 (4件)「椅子の座り心地のよさ」 (3件) というよい点が指摘された一方, 「24時間利用の実施」 (10件)「PC・プリンタの設置」 (6件)「使用方法の明示」 (5件)「ソファ席の増設」 (3件)「飲食マナーの明確化と改善」 (3件)「AWDの時間枠の追加」 (3件)「プレゼンテーションの相談の別の時間帯での実施」 (2件)「常駐職員の支援内容の明示」 (2件) という課題が指摘された。

#### 4. 結果の検討

調査実施の時期は, 各セメスターの期末から休暇期間にかけてとし, 学年により忙しい時期が異なるため2ヶ月程度の期間をとった。第2回の回答数が少なかった理

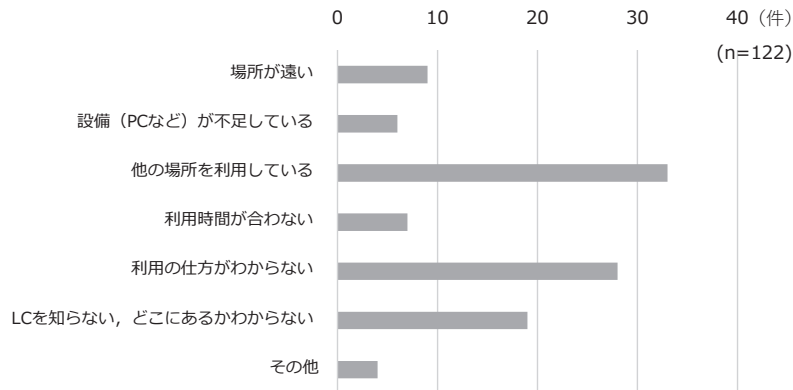


図6 利用していない理由 (複数回答)

由として、調査時期が看護学部生の実習、看護学研究科の大学院生の研究計画書提出の時期と重なったこと、また学部、大学院ともに最終学年は卒業、修了を控えていることがある。このことから、今後、継続して調査を行う場合は第1回の調査時期が適していると考えられる。

第1回調査で「利用しない理由」として、「利用の仕方がわからない」「LCを知らない、または、どこにあるかわからない」という回答が多く、自由記述においても「使用方法の明示」「常駐職員の支援内容の明示」に複数の意見が寄せられた。利用経験がある学生は「よい点」として「会話しながら学習できる」「勉強に集中できる」と回答し、自由記述においても「会話して学習が可能」という点に複数の意見が寄せられており、LCの機能が理解されていた。広報やWebページ等による利用案内の整備によりLCの設置目的や機能を報せ、利用経験の機会を増やす必要性が認識された。

設備では、自由記述で「PC・プリンタの設置」を望む意見が複数寄せられた。什器に関しては、「椅子の座り心地のよさ」が評価され「ソファ席の増設」が要望された。ソファ席はWG内で複数の委員が学生からの支持を実感していた。サービスでは、「24時間利用の実施」への要望が多く、「AWDの時間枠の追加」「『プレゼンテーションの相談』の別の時間帯での実施」という現サービスの拡大を望む意見があった。

#### IV. 課題

現状の把握から改善すべき点として「広報、利用案内の整備」「PC・プリンタの設置」「ソファ席の増設」「24時間利用の実施」「現サービスの拡大」が抽出された。

「広報、利用案内の整備」は、まず広報について、第2回調査でも要望が多かった映画上映会を実施することにより、学生がLCに親しみ理解する機会を作ることになった。実施は学生図書委員会の協力を得て行う。WGでは廊下に設置した掲示板の活用が検討されている。利用案内について、現在、WebページはAWDのみ整備されて

いる状態である。2019年度以降、学術情報センター全体のサイト再構築が検討されているが、そのなかで実現する予定である。

「PC・プリンタの設置」は、まずPCについて、WGで検討したが、以下の理由から見送られた。それは、情報システムセンターが行った隣接する図書館内PCの同時起動台数の調査から現状では充足していると判断されたこと、PCを据え付けると可動式の什器を備え学生が自由に移動して学べる環境が生かされないこと、情報システム小委員会で貸出PCシェアロッカーの導入を検討中であることである。プリンタについては、図書館内の比較的使用量が少ないプリンタ・コピーの複合機1台の移動を検討中である。

「ソファ席の増設」は第二期整備で実現し学生からよく活用されている。

「24時間利用の実施」は学生からの要望が高いことが予想されたが、現在のところ、大学本館の施設全体のセキュリティ上実現が難しい。

「現サービスの拡大」について、まずAWDは、2018年10月より週1日から2日に拡大した。プレゼンテーションの相談は、現状では相談対応者1名で実施しているため拡大が難しく検討が必要である。

今後も、継続して現状を把握し、改善していきたい。

ラーニング・コモンズ・ワーキング・グループ：

奥裕美、佐藤晋巨、中島薫、Jeffrey Huffman、福田昌、藤田寛之、平川淳一、増淵勇作、松本直子、八木貴裕

#### 引用文献

- 1) 国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会。  
ラーニング・コモンズの在り方に関する提言：実践事例普遍化小委員会報告 [Internet]. <https://www.janul.jp/j/projects/sftl/sftl201503a.pdf> [参照 2018-10-20]
- 2) 文部科学省。平成29年度「学術情報基盤実態調査」について (概要) [Internet]. <https://www.janul.jp/j/documents/mext/jittai29gaiyo.pdf> [参照 2018-10-20]